

ベトナムでQOL普及を

医師ら初来弘、弘大で研修

弘前大学大学院医学研究科の健康未来イノベーション研究機構は20日、同大が開発したQOL健診をベトナムで普及することを目的に、ベトナム・ハイフォン市の医療関係者を対象にした研修を弘前市在府町の健康未来イノベ



ロコモに関わる歩幅の測定を体験するベトナムの医療関係者（左から3人目）

ーションセンターで行った。医療関係者は血圧や野菜摂取量、脚力など6項目に絞った簡易型の健診を体験し、生活習慣の改善に役立て健康寿命を延ばすという同健診の目的について理解を深めた。
（石田紅子）

血圧や脚力、簡易型健診体験

国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として行い、ハイフォン市疾病予防センターの医師ら8人が参加した。同市から来弘したのは初めて。11月には同大関係者が同市を訪問して指導する予定。事業の実施期間は3年間。

医師らは食品大手のカゴメが開発した測定器「ベジチェック」で野菜摂取量を測り、運動機能の低下を示すロコモティブシンドロームに関わる歩幅の測定などを行った。その後、健診の開発・普及を主導する同研究科の中路重之特任教授の講義に耳を傾けた。

同市疾病予防センターのドン・チュン・キエン副センター長は「ベトナムでは健診結果がすぐ出ないこと

で結果に興味を持たない人が多いが、結果がすぐ分かる点は大切。国民のために持ち帰って実施し、将来的に広げたい」と述べた。

中路特任教授は「ベトナムでも生活習慣病と肥満が増えてきているので、健康教育は大事になってくる」と世界レベルでの普及に期待を込め、「ベジチェックは岩木健康増進プロジェクトを通じて精度が検証された機器。企業にプロジェクトを通じて新しい測定技術を開発してもらい、健診で導入することで地域経済の活性化につながることも目的の一つ」と説明した。